

## 〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、24～27℃台を示し、平年並みの水温でした。

## 〔漁況概要〕

- 中小型まき網――台風と月夜間に出漁日数が少なかった。西彼地区では、マアジなどが1日1統当たり0.1トンの水揚げで、前週の1%（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり1トンの水揚げで、前週の10%（前年を下回った）。
- イカ釣――ケンサキイカは対馬東岸地区では、1日1統当たり20kgの水揚げで、前週の19%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では1日当たり32kgの水揚げで、前週の1%（前年を下回った）。
- 定置網――五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり722kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり34kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ウスバハギなどが1日1統当たり1.1トンの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり236kgの水揚げで、前週の1.2倍（前年を上回った）。
- トビウオ船曳――北松生月地区では、小トビ主体で1日1統当たり1.4トンの水揚げで、前週の1.8倍（前年を上回った）。

## 〔日本海スルメイカ情報〕

今期（9/15～9/17の3日間）沖合イカ釣（船凍船）は、引き続き大和堆付近で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐諸島周辺～兵庫沖～能登半島沖～新潟沖～山形沖で操業。  
鳥取県西部（沖合船）3日延34隻、総計3,473箱、1航海最高416箱、平均102.1箱。スルメイカ（20～40入）3,292箱、ケンサキイカ（2～4立）181箱の混獲となった。（漁業情報サービスセンターより）

## 〔お知らせ〕

漁海況通信「第3-26号 小トビ（トビウオ未成魚）飛翔目視調査結果【3】」、を発表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>